

鎌ヶ谷市 郷土資料館 だより 第70号

目次

- 第29回ミニ展示を開催……………1・2
- 郷土資料館この一品⑳……………2
- 春の自然観察会を開催……………3
- 収蔵資料展示vol. 28を開催……………3
- 史料整理の現場から⑲……………4



軽井沢地区の田植えの様子（平成元年6月）

第29回ミニ展示 『民俗写真の世界①』を開催

～鎌ヶ谷の社会生活、生業、交通・交易、衣食住を写す～

近年、古くから伝えられてきた「民俗」の滅失が進み、それらを撮影した写真が貴重となってきました。

鎌ヶ谷市では、市史編さん事業や郷土資料館が調査した際の写真、個人の方が撮影した民俗



昭和30年頃の木下街道と井草三叉路

写真などが多数残っています。今回のミニ展示ではそれらの中から、社会生活、生業、交通・交易、衣食住に関わるものを抽出し写真パネルで展示します。

かつての鎌ヶ谷の人たちの生活の様子を、写真によって垣間見てみませんか。

期間 3月22日(土)～5月25日(日)

※毎週月曜日と5月7日(水)は休館。なお、祝日の4月29日(火)、5月3日(土)～6日(火)は開館します。

会場 郷土資料館2階展示室

展示内容

(1)社会生活 集落景観、諸集団(青年団など)、共同施設など

(2ページへ続く)

(1 ページからの続き)

(2) 生 業 田畑の景観、谷津田の米作り、
農作業、ムラの職人など



初富の民家（平成元年2月）

(3) 交通・交易 道・橋・辻の景観、運送の
様子など

(4) 衣・食・住 市内各所の民家、母屋と付
属棟、建築の儀礼、ハレとケの衣食など

ギャラリートークを開催

担当学芸員による展示解説を行います。

日時 ①3月30日(日)、②4月16日(水)、
③4月29日(火)、④5月5日(月)、⑤5月
24日(土)

時間 いずれも午後1時30分～2時30分

定員 各回7人（申し込み先着順）

申し込み 郷土資料館 ☎ 445-1030

郷土資料館この一品⑳

電話機三選

今回は、「生活の道具コーナー」の3種の
電話機をご紹介します。

まず①(写真左)は、ダイヤル式の通称“黒
電話”と呼ばれる「自動式卓上電話」です。
それまで電話は交換手を介してかけていたも
のが、相手方の番号を回して直接相手につな
がるようになったことから“自動式”と呼ば
れました。これは昭和37年(1962)に登場し
た機種で、電話機の中央に円形に配列された
1から0の数字の上に置かれた円盤(ダイヤ
ル)の数字の穴に指を差し込み、電話番号順
に1の方向(右回り)にストッパーまで回して
相手方にかけるものです。次の番号はダイヤ
ルが戻るまで待つことから、急いでかけるに
はもどかしかったかもしれません。昭和44
年(1969)にはボタン配列のプッシュ式が登
場しましたが、昭和の終わり頃まではダイヤ
ル式は広く使われていました。

次に②(写真中)は「有線電話装置」といっ
て、ダイヤルやボタンがなく、受話器を取
ると交換手につながる仕組みです。機器の中央
部にはスピーカーが付いており、一定区域内



左から本文中の①・②・③の電話機

での必要な情報などが流されました。最後に
③(写真右)の電話は、受話器を取り機器の右
側のハンドルを回して交換手を呼び出し、相
手方につないでもらうものでした。②、③は
いずれも交換手を介するもののため、電話機
に番号を入力する仕組みはありません。

なお、電話の普及率は1950年代では全世帯
のわずか1%程度です。電話が広く家庭に普
及するのは1980年代以降で、2000年に加入
台数6000万台とピークを迎えます。その後、
携帯電話の普及により数が減り、今では固定
電話を持たない家庭も多いようです。

明治32年(1899)2月1日は初めて東京と
大阪間で長距離電話が開通した日だそうです。
メッセージだけでなく、たまには声を届ける
のもいいかもしれません。

早春の大津川沿いを歩こう

～春の自然観察会～

春の訪れが待ち遠しい今日このごろ。郷土資料館では一足早く「春の自然観察会」を開催します。

市域の北部に位置する大津川沿いは、自然をよく残しているといわれる地域です。この観察会では大津川沿いを散策しながら、野鳥や植物などを観察します。あなたも早春の自然とふれあってみませんか。

日時 3月1日(土)午前9時30分～正午(雨天の場合は翌2日(日)に順延)

場所 北部公民館に集合(車での来場はご遠慮ください)

定員 25人(申し込み先着順)



一足早く春の息吹を感じてみませんか

講師 唐沢孝一さん(NPO法人自然観察大学 学長)

会費 50円(保険料)

服装 歩きやすい服・運動靴

申し込み 郷土資料館 ☎ 445-1030

収蔵資料展示 vol. 28

新京成電鉄78年のあゆみ

郷土資料館では2月1日(土)から2月28日(金)まで、「新京成電鉄78年のあゆみ」をテーマに収蔵資料展示を開催します。

令和6年10月で設立から78年を迎えた新京成電鉄は、昭和21年(1946)10月18日に旧日本陸軍鉄道第二連隊演習線跡地の払い下げを受けた京成電鉄が設立し、翌22年(1947)12月27日に戦後最初の新設鉄道として新津田沼ー薬園台間で開業しました。昭和30年(1955)4月21日には、京成津田沼ー松戸間が全線開通し現在に至っています。



展示のようす(「新京成電鉄行先標」など)

鎌ヶ谷市域には、鎌ヶ谷大仏駅(昭和24年(1949)1月8日開業)、鎌ヶ谷初富駅(同年10月7日開業。昭和30年4月1日に初富駅へ改称)、北初富駅・くぬぎ山駅(昭和30年4月21日開業)、新鎌ヶ谷駅(平成4年(1992)7月8日開業)の5駅があります。

鉄道・バスの運輸業と不動産業を中心に、千葉県北西部で事業を展開し沿線の開発とともに発展してきた新京成電鉄は、今年4月1日に京成電鉄に合併され「京成松戸線」として営業することになります。

今回の展示では新京成電鉄78年のあゆみを、同社からお借りした年表や写真パネル、当館の収蔵資料などで振り返ります。



片側が高架運行を始めた「初富駅」

【史料整理の現場から⑬】

いつの時代もボードゲームで 大盛り上がり!?

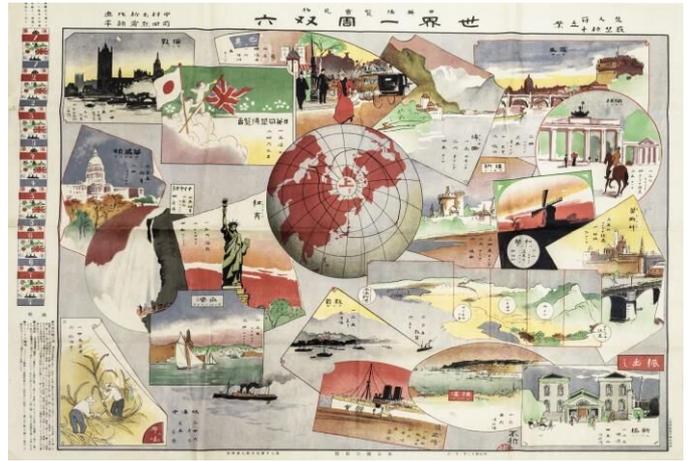
令和5年度に寄贈いただき、ここにも何度か登場している徳田家の史料の中から、今回は「^{ナゴロク}双六」をご紹介します。

奈良時代からあったといわれる双六は、明治～昭和時代に元旦の新聞付録となることがよくありました。テーマは様々で、今回の双六は「日英博覧会見物 世界一周双六」という題名が付いています。この博覧会は明治35年(1902)に締結した日英同盟を記念し、同43年5月から約半年間イギリスで開催されたもので、これを祝して同年1月1日付の東京朝日新聞(現朝日新聞、以下朝日新聞)の付録として発行されました。

双六の始点は当時の海外への玄関口である横浜港で、太平洋を越えサンフランシスコへ上陸し陸路で北米大陸を経て航路でイギリスに渡り、日英同盟博覧会を見物します。その後、再度海を越えてヨーロッパに入ると列車で陸路をパリから一気にローマまで南下し、再び北上してオーストリアなどを経由しモスクワへ着きます。そこから東へ向け、シベリア鉄道に乗ってバイカル湖を越えウラジオストクまで横断します。最後は再び航路で日本の^{つるが}敦賀(福井県)へ戻ってくるという世界一周の旅でした。

まず目を惹くのが外国の地名を漢字で表記していることです。「^{パリ}巴里」「^{ロンドン}倫敦」「^{ローマ}羅馬」はご存知の方もいると思いますが「^{ハワイ}布哇」「^{スイス}瑞西」「^{ニューヨーク}紐育」などは、今ではほとんど使われず馴染みがないですね。でもPCでこれらの地名を打って変換するとちゃんと出てきます。

双六の遊び方は今のボードゲームとほぼ同じです。例えば「^{ベルリン}伯林」エリアには「一三六 モスコー 四 サイベリヤ鉄道 二五 ローマ」とあ



明治時代の双六

ります。これはサイコロで1、3、6のいずれかが出れば「モスクワまで進む」、4が出れば「シベリア鉄道まで進む」、2、5が出れば「ローマまで戻る」となります。現在の人生ゲームと比べて「戻る」のコマ数が多く、なかなか「^{あが}上り」にならないのではとハラハラです。

題名の右側に「楚人冠・藪塾椋十立案」、左側は「中村不折作画・前田黙鳳題字」とあります。立案者二人は当時の朝日新聞社の記者で、そのうちの一人^{そじんかん}杉村楚人冠(本名廣太郎)は、在日アメリカ公使館の通訳を経て明治36年に朝日新聞社に入社、特派員として欧米に渡り新聞記事を多数執筆しています。海外旅行がまだまだ一般的でなかった明治期に、双六のテーマを世界一周旅行としたこともうなずけます。なお楚人冠は大正12年(1923)の関東大震災の翌年、別荘としていた我孫子町(現市)の邸宅に移住しました。現在我孫子市に開設されている「杉村楚人冠記念館」はこの邸宅の母屋をそのまま利用したものです。また紙面に各国の絵を描いた中村不折は明治～昭和期に活躍した洋画家で、夏目漱石『吾輩は猫である』の挿絵画家としても知られていました。作画・立案者の人選を見るとその力の入れ様が見て取れます。たかが付録、されど付録なのです。

鎌ヶ谷市郷土資料館だより 第70号 令和7年2月1日発行 編集・発行：鎌ヶ谷市郷土資料館
住所：〒273-0124 鎌ヶ谷市中央1-8-31 Tel：047-445-1030 Fax：047-443-4502
メール：kyodo@city.kamagaya.chiba.jp
ウェブサイト：http://www2.city.kamagaya.chiba.jp/sisetsu/kyoudo_2/index.html